岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第6号（2021）136 － 147

海外の大学におけるセクシュアルマイノリティ学生支援
－ウェブサイトから分かるアメリカの大学の支援状況－

松井　めぐみ

Support for Sexual Minority Students in Overseas Universities －Support Status Searched from American Universities Websites－

Megumi MATSUI

要旨

アメリカの大学におけるセクシュアルマイノリティ学生への支援状況について，State and territorial universities 623 校を対象に、各大学のウェブサイトを参照して調査を行った。セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートするセンター・部署を持つ 339 校の「センター・部署の名称」「支援・活動内容」を調査したところ、名称で多く使用されている単語や、多くの大学で行われている支援・活動内容が明らかとなった。支援・活動内容は 10 のグループに分類され、「施設・設備」「カウンセリング・サポート」「LGBT 関連」「相互支援」「啓発活動」「各種資料提供」「経済・服」「医療」「性関連」「その他」であった。これらの結果は今後の日本の大学における支援・活動の参考となるものであった。

キーワード：セクシュアルマイノリティ，大学，相談，支援，アメリカ

問題と目的

日本の大学におけるセクシュアルマイノリティ支援は、近年その必要性が認識されつつあるものの、セクシュアルマイノリティ学生の支援を専門とする部署を持つ大学は 2021 年時点でわずか 4 大学（早稲田大学、筑波大学、明治大学、中央大学）にとどまっている。松井（2020）が日本の大学を対象に行った調査でも、各大学で最もセクシュアルマイノリティ学生からの相談・支援を担当している人の所属部署が「セクシュアルマイノリティ支援に特化した部署」と回答したのは 1 校しかなく、学生相談室（129 校）、学生支援課（43 校）、保健管理センター（40 校）、障がい学生支援室（12 校）が主な部署であった。セクシュアルマイノリティ学生の場合、相談内容が医療や身体的なこと、カミングアウト、対人関係、家族関係、事務手続き、就活や進路、恋愛、配慮の申請など多岐にわたるため、どこに相談するのが適切なのかが分からなかったり、セクシュアルマイノリティについての知識や理解がない人が担当になってしまうこともある。松岡（2021）は「専門のセンターができることで、相談のハードルが下がる」と述べており、当事者学生が安心して相談で

き、適切なケアを受けることができるためにも、セクシュアルマイノリティ学生支援を専門とするセンターや部署ができることが望まれる。

実際にセクシュアルマイノリティ学生支援を専門とする部署を持つ4大学では、その部署で相談だけではなく、様々な支援の活動が行われている。各大学のウェブサイトによると、早稲田大学（早稲田大学GSセンター，2021）では、個別相談、図書利用、コミュニティスペース、イベント・研修が実施されており、ウェブサイトに各種資料も載せてある。筑波大学（筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門，2021）では、個別相談、LGBTに関する研修が実施されており、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン第3版」（国立大学法人筑波大学，2020）が公開されている。明治大学（明治大学レインボーサポートセンター，2021）では、個別相談、ワークショップやイベント、関連書籍・DVDの閲覧・視聴、コーディネーターとの対話が実施されている。中央大学（中央大学ダイバーシティセンター，2021）では、個別相談、安心・安全な居場所、ダイバーシティに関する情報提供、啓発・研修が実施されている。4大学とも個別相談と資料提供が中心で、早稲田大学以外は実施されているイベント等の情報がほとんど掲載されておらず、コロナ禍という状況もあるだろうが、イベント等の啓発的な活動は今後の充実が待たれる。松尾（2021）は、学校現場では「個別支援と同時に全体への働きかけを行い、２つを車の両輪のように進めていくことが必要」と述べ、全体への働きかけとして「正しい理解をする」「肯定的なメッセージを発信する」「多様性につながる土壌をつくる」の3つを挙げている。枝川（2019）は，大学側はLGBTQ＋の学生がセクシュアルマイノリティを表明しなくても，苦痛や負担を感じない環境をつくり上げる必要があると述べている。大学は当事者への個別支援だけではなく、大学全体や構成員への働きかけによる、当事者学生・教職員が安心して過ごすことができ、個々の能力を発揮できる環境づくりを行うことも重要である。

そのためには具体的に何を行っていけば良いか考える際に、日本よりも早くセクシュアルマイノリティ当事者支援が行われ始めた海外の教育機関の状況が参考になると思われる。五十嵐（2019）はアメリカと他4か国における教育機関でのLGBTQ＋への対応を紹介しており、LGBTQ＋生徒と異性愛の生徒がともに安全で居心地のいい学校づくりを行う組織の存在が、「心理社会的に防衛的にならず、知覚的にも実態としてもあるがままに受け入れられ認められるとともに、居場所として所属感も体験できる関係をもてていることがポジティブな結果につながっている。」と述べており、当事者と当事者ではない人がともに参加する組織や活動の有効性が示唆されている。また藥師（2014）によると、ニューヨーク大学のLGBT学生センターは1992年に設立され、キャンパス内に事務所と学生ラウンジを併設したセンターを持ち、メーリングリストには卒業生や教職員も含め約3000名が登録しており、イベント企画、講演会、相談事業、サークルサポート、SAFEZONEトレーニングなどを行っている。30年近くの歴史持つセンターで行われている充実した活動内容は、日

本ではまだ実施されていないものもあり非常に参考になる。そしてアメリカの他の大学の取り組みも調べることで、より多くの支援・活動内容を具体的に知ることができ、今後の取り組みに有益な示唆を与えてくれると考えられる。

本研究では，今後の日本の大学におけるセクシュアルマイノリティ学生支援を考えるために、海外の大学のセクシュアルマイノリティ学生支援を専門とするセンターや部署の支援や活動内容を調査する。そのため、まずはアメリカの大学の状況を各大学のウェブサイトから調査し、どのようなセンター・部署がどのような支援・活動を行っているのかをリストにし、特徴を分析することで、これからの日本の大学における支援活動に役立てることを目的とする。

方法

調査方法　2020 年 3 月～2020 年 9 月に，アメリカの各大学のウェブサイトを参照して調査を行った。調査は英語が母国語で日本語も堪能な人に調査の主旨を説明し、調査項目の表に沿って各大学の情報を調べてもらった。

調査対象　アメリカの大学の内、state and territorial universities を調査の対象とした。アメリカには 4000 以上の大学が存在しており、全てを調査することは時間がかかるため、ある程度の規模があり、日本の大学数（758 校）に比較的近い state and territorial universities を対象とすることにし、2020 年時の「List of state and territorial universities in the United States」（Wikipedia，2020）に掲載されていた、623 校を調査対象とした。

分析対象　623 大学のウェブサイトから、セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートするセンターや部署の存在が確認された 339 校（54.41％）を分析の対象とした。

調査内容　各大学のウェブサイトに記載されている、セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートするセンターや部署について、5 つの調査項目（「大学名」「センター・部署の名称」「WEB ページの URL」「メールアドレス」「支援・活動内容」）を調査した。なお「支援・活動内容」は「カウンセリング」「イベント開催」「サポートグループ」等の単語もしくは短文で表に記述していった。

本研究の分析対象項目　調査項目の内、本研究では「(セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートする）センター・部署の名称」と「支援・活動内容」を分析対象項目とした。

結果

アメリカの大学における、セクシュアルマイノリティ学生支援を専門に行っているセンターや部署の特徴を探るために、「センター・部署の名称」に使われている単語をカウントした。その際、「センター・部署の名称」に含まれている大学名や地名、人名、何かの略称（SAGA など）と、頻出する「Center」や「student」等の単語を除いた 660 個の単語をカ

ウントの対象とし、多く使用されている順に集計して表にした（Table1）。その結果、最も多く使われていたのが「LGBT」を含む単語（LGBTQ, LGBTQ+, LGBTQA, LGBT*QA, LGBTQA*, LGBTQIA, LGBTQQ, LGBTQS）で、128 個であった。50 個以上の使用があったのは、「Resource（65）」、「Alliance（53）」「Gender（51）」であった。10 個以上の使用があり、セクシュアルマイノリティを示す単語（Gay, Lesbian, Bisexual, Transgender, Queer）以外で使われていた単語は、「Diversity」「Straight」「Safe Zone」「Spectrum」「Programs, Programming」「Pride」「Sexual, Sexuality」であった。

次に、各大学のウェブサイトから実施されていることが分かった「支援・活動内容」について、全体の個数と内容別にそれぞれ集計を行った。ウェブサイトで「支援・活動内容」が分かった大学は 339 校あり、各大学で行われている「支援・活動内容」を拾い上げていったところ、それぞれの大学で内容の個数は 1 個～15 個あり、全て合わせると 1159 個、実個数（内容の種類）は 114 個であった。Table2 は、1159 個を数の多い順に表にしたもので、最も多くの大学で行われていたのが「イベント開催（181）」であり、続いて「LGBT アライになるためのトレーニング（100）」「安全なスペース（91）」「性別関係ないトイレ（88）」「サポートグループ（77）」「ミーティング（60）」「カウンセリング（55）」であった。続いて、内容の種類 114 個を分野別にグループ化したところ、大きく 10 のグループに分けることができ、「施設・設備」「カウンセリング・サポート」「LGBT 関連」「相互支援」「啓発活動」「各種資料提供」「経済・服」「医療」「性関連」「その他」であった（Table3）。

考察

日本では 2021 年時点で、セクシュアルマイノリティ学生を専門に支援するセンターや部署を持つ大学は 4 大学しか確認されていないが、アメリカでは state and territorial universities に限定しても、339 大学に存在していることが分かった。各施設がいつ作られたものなのかまでは確認していないが、この大学数の圧倒的な違いから、日本の状況は大きく遅れていると言えるであろう。

セクシュアルマイノリティ学生支援を専門に行っているセンター・部署の名称は、その組織の目的や理念がある程度表れていると考えられ、「センター・部署の名称」に使用されている単語を抜き出してカウントすることで、その特徴を探った。その結果、最も多く使われているのは「LGBT」が含まれる単語であったが、それも「LGBT，LGBTQ，LGBTQ+，LGBTQA，LGBT*QA，LGBTQA*，LGBTQIA，LGBTQQ，LGBTQS」と様々なバリエーションがあり、名称をつける時にそのセンター・部署はどういう人を対象とするのか考えられていることが伺える。次に多かった「Resource」は「Resource Center」の形で使われていることが多く、様々な情報やものなどを提供し、援助するという機能を担う目的でセンターが作られていることが分かる。その次に多かった「Alliance」からは、さまざまな人達が集まってみんなで協力していくという目的が読み取れる。10 以上使用されている単語の中

Table 1
セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートするセンター・部署の名称に含まれる単語

単語	個数	単語	個数
LGBT, LGBTQ, LGBTQ+, LGBTQA, LGBT*QA, LGBTQA*, LGBTQIA, LGBTQQ, LGBTQS	128	Coalition	2
Resource	65	Commission	2
Alliance	53	Counseling	2
Gender	51	Gender Equity	2
Sexual, Sexuality	43	Identity	2
Pride	41	Inclusive	2
Queer	26	Initiatives	2
Gay	24	Intercultural	2
Programs, Programming	19	Joy	2
Spectrum	18	Project	2
Transgender, Trans	17	Affinity	1
Safe Zone	13	Affirming	1
Straight	13	Change	1
Lesbian	12	Clinicians	1
Bisexual	11	Cross Cultural	1
Diversity	10	Engagement	1
Cultural	9	Expression	1
Equality	9	Friendly	1
Rainbow	7	Gender Transition	1
Prism	6	Individual Differences	1
Ally	5	Justice	1
Multicultural	5	LIVING	1
Community	4	Mosaic	1
Education	4	Open	1
Services	4	Orientation	1
Social	4	Patriot	1
Health	3	Policy	1
Inclusion	3	Public	1
Learning	3	Science	1
Safe Space	3	Soul	1
Support	3	True Colors	1
Women	3		

Table 2
セクシュアルマイノリティ学生を専門にサポートするセンター・部署で実施されている支援・活動の内容

内容	個数	内容	個数
イベント開催	181	単純な医療ケア	2
LGBTアライになるためのトレーニング	100	動画	2
安全なスペース	91	無料服交換	2
性別関係ないトイレ	88	LGBTQ関係の授業	1
サポートグループ	77	LGBTアライになるためのオリエンテーション	1
ミーティング	60	LGBT学生と教員が毎月ランチ	1
カウンセリング	55	LGBTカミングアウトのサポート	1
ディスカッション	48	LGBTカミングアウトのサポートグループ	1
性別関係ない寮	35	LGBT関係の研究サポート	1
サポートサービス	25	LGBTに関するワークショップ	1
奨学金	25	LGBTの恋人や家族のためのサポート	1
本	23	LGBT向けの留学	1
紹介状	21	LGBT雑誌作り	1
ワークショップ	21	LGBT先輩と後輩をペアサポート	1
ディスカッショングループ	19	LGBT用の資料	1
医療ケア	14	アクティビティー	1
登録されている名前/性別変更支援	13	安全に関する動画	1
登録されている名前変更支援	13	医療研究	1
LGBTアライになるためのワークショップ	12	お互いと仲良くなれるスペース	1
ピアサポート	12	お互いに勉強	1
映画	12	カンファレンスルーム	1
名前変更	12	キッチンとパソコンとゲームを利用できるスペース	1
LGBT用の寮	11	キッチンとパソコンを利用できるスペース	1
ボランティア活動	11	紹介状（近くの医療機関に）	1
資料	9	職員用のプログラム	1
LGBT関係の授業	8	性別関係ないシャワー	1
カンファレンス	8	性別関係ないロッカールーム	1
医療ケア（ホルモン調整も含まれる）	7	センターでボランティア活動	1
無料性病検査	7	ディスカッショングループ（学生により実行）	1
先輩によるガイダンス	6	登録されている性別変更支援（教員のみ）	1
無料避妊具	6	ピアサポート（勉強）	1
インターンシップ	5	プレゼン	1
雑誌	5	法的なサポート	1
個室トイレ	4	ホルモン調整提供	1
安全な話し合えるスペース	4	ミーティングや勉強に使えるスペース	1
医療サポート	3	みんなでランチ	1
カウンセリングが受けられるキャンパスセンターに紹介	3	メンタル相談室	1
サポートグループ（学生により実行）	3	レクチャー	1
安全な勉強できるスペース	3	安全なトイレ	1
教育サポート	3	医療ケア（性病検査も含まれる）	1
相談室	3	医療ケア（性別適合手術も含む）	1
服交換	3	教科書	1
医療センター	2	金銭的サポート	1
オンラインサービス	2	資料センター	1
カウンセリングへの紹介状	2	手術に関するコンサル	1
グループカウンセリング	2	就職サポート	1
個別サポート	2	性に関するワークショップ	1
就活サポート	2	性に関する資料	1
登録されている性別の変更支援	2	先輩からのガイダンス	1
パンフレット	2	相談	1
ピアサポートグループ（学生により実行）	2	大学のそれぞれのセンターへの紹介	1
メール雑誌	2	大学教員がLGBTの学生をサポートできるようになるための訓練	1
ルームメイト選択	2	日記	1
性別関係ないトイレ/個室	2	保険	1
新聞	2	無料の服	1
政治関係の活動	2	無料衛生品	1
先輩によるガイダンスプログラム	2	無料生理用品	1

Table 3
グループ分けした支援・活動内容

施設・設備	カウンセリング・サポート
性別関係ないトイレ	カウンセリング
性別関係ないトイレ/個室	グループカウンセリング
個室トイレ	カウンセリングへの紹介状
安全なトイレ	カウンセリングが受けられるキャンパスセンターに紹介
性別関係ない寮	大学のそれぞれのセンターへの紹介
LGBT用の寮	メンタル相談室
性別関係ないシャワー	相談
性別関係ないロッカールーム	相談室
安全なスペース	サポートサービス
安全な話し合えるスペース	サポートグループ
安全な勉強できるスペース	サポートグループ（学生により実行）
お互いと仲良くなれるスペース	個別サポート
カンファレンスルーム	教育サポート
ミーティングや勉強に使えるスペース	就活サポート
キッチンとパソコンを利用できるスペース	就職サポート
キッチンとパソコンとゲームを利用できるスペース	法的なサポート
相互支援	職員用のプログラム
ミーティング	オンラインサービス
ディスカッション	名前変更
ディスカッショングループ	登録されている名前変更支援
ディスカッショングループ（学生により実行）	登録されている性別の変更支援
カンファレンス	登録されている名前/性別変更支援
ピアサポート	登録されている性別変更支援（教員のみ）
ピアサポートグループ（学生により実行）	**啓発活動**
ピアサポート（勉強）	イベント開催
お互いに勉強	ワークショップ
先輩によるガイダンス	アクティビティー
先輩によるガイダンスプログラム	プレゼン
みんなでランチ	レクチャー

Table 3（続き）
グループ分けした支援・活動内容

LGBT関連	経済・服
LGBTアライになるためのトレーニング	奨学金
LGBTアライになるためのワークショップ	金銭的サポート
LGBTアライになるためのオリエンテーション	保険
LGBT関係の授業	服交換
LGBTQ関係の授業	無料服交換
LGBTに関するワークショップ	無料の服
LGBTカミングアウトのサポート	**医療**
LGBTカミングアウトのサポートグループ	医療センター
LGBTの恋人や家族のためのサポート	医療サポート
LGBT学生と教員が毎月ランチ	医療ケア
LGBT先輩と後輩をペアサポート	医療ケア（ホルモン調整も含まれる）
LGBT関係の研究サポート	医療ケア（性病検査も含まれる）
LGBT用の資料	医療ケア（性別適合手術も含む）
LGBT雑誌作り	単純な医療ケア
LGBT向けの留学	ホルモン調整提供
大学教員がLGBTの学生をサポートできるようになるための訓練	手術に関するコンサル
各種資料	紹介状
本	紹介状（近くの医療機関に）
映画	医療研究
パンフレット	**性関連**
新聞	性に関するワークショップ
メール雑誌	性に関する資料
雑誌	無料性病検査
教科書	無料避妊具
日記	無料衛生品
動画	無料生理用品
安全に関する動画	**その他**
資料	ボランティア活動
資料センター	センターでボランティア活動
	ルームメイト選択
	政治関係の活動
	インターンシップ

で、「Gender」「Sexuality」「Lesbian」「Gay」「Bisexual」「Transgender」「Queer」「Programs」があるのはセクシュアルマイノリティ支援の場なので不思議ではないが、それ以外の単語として「Pride」「Spectrum」「Safe Zone」「Diversity」「Straight」があった。「Pride」は「Gay Pride」として使われていた歴史を持ち、その後セクシュアルマイノリティの尊厳や多様性の尊重の意味合いで使われるようになった経緯があり、日本でも近年「プライドハウス東京」「Pride Center Osaka」等の名称の組織が誕生し始めている。この言葉を用いることにより、存在の肯定や尊厳、尊重という想いが伝わってくる。「Spectrum」は類型化ではない性の多様性を示す言葉であり、「Straight」は異性愛者を指す言葉であるが、これらの言葉も含む名称にすることで、当事者だけではなく全ての人を対象とし、誰もが参加する、一人一人の多様なセクシュアリティを尊重する場であることが示されている。「Safe Zone」や「Safe Space」は差別や暴言を受けることのない、安心して過ごせる安全な場を提供するという目的を示したものであり、日本では今のところ名称の中で使用された例はほとんどないものの、今後使われる可能性がある。「Diversity」は「Diversity and Inclusion」の形で名称に使われていることが多く、多様性の実現からさらに進み、多様性を持つ個々人がお互いに尊重し合い、能力や特性を活かすことができることを目指すという意思が反映されている。これら以外にも今回の調査の結果では 46 の単語が使用されており、それぞれの単語はそのセンター・部署の理念や目的を示すために選ばれていると考えられる。今後日本の大学でセクシュアルマイノリティ支援を専門に行うセンター・部署が誕生していった時に、どのような言葉が選ばれるのか興味を持って見守っていきたい。

続いて、各大学のウェブサイトから実施されていることが分かった「支援・活動内容」について考察を行う。ウェブサイトで「支援・活動内容」が分かった 339 大学で行われている「支援・活動内容」は、全て合わせると 1159 個であったが、当然のことながら重複しているものがたくさんあり、それらをまとめると内容の種類は 114 の内容となった。1159 個を内容別に数の多い順に並べていくと、最も多かったのは「イベント開催」だが、その次に「LGBT アライ（理解し支援する人）になるためのトレーニング」が 100 大学で行われていたのは興味深い。これは大学が当事者学生だけではなく、それ以外の学生への働きかけも重視しているということの表れである。また「安全なスペース」が 91 大学で提供されており、当事者が安全に過ごすことの出来る居場所が多くの大学で作られている。日本の大学では、建物事情によりスペースを確保することが難しい面があるが、セクシュアルマイノリティ支援を専門に行うセンターや部署を作る時に、スペースの確保も重要である。その他多くの大学で行われているものとして、性別関係ないトイレの設置、サポートグループ、ミーティング、カウンセリング、ディスカッションなどは日本の大学でも類似のものが実施されているが、奨学金（25 校）や LGBT 用の寮（11 校）は日本の大学ではまだ存在しないものであり、今後の参考になる。その他、1 校のみで行われている内容も 54 種あり、各大学で独自に工夫しているものがたくさんあるので、他の大学の取組を参考にし

つつ、必要と思われる支援・活動を独自に考え、行っていくことも大事であると思われる。

次に 114 の内容を著者が分野別にグループ化したところ、「施設・設備」「カウンセリング・サポート」「LGBT 関連」「相互支援」「啓発活動」「各種資料提供」「経済・服」「医療」「性関連」「その他」の 10 グループに分けることが出来た。「施設・設備」の内、LGBT 用の寮や各種の安全なスペース、キッチンやパソコンが利用できるスペースなどは日本の大学ではほとんど存在していないもので興味深い。「カウンセリング・サポート」は、日本でもセクシュアルマイノリティ専門部署がなくても学生相談室や保健管理センターで行われているが、アメリカの大学では「教育サポート」「就活サポート」「法的なサポート」も行われている所があり、学生が実行するサポートグループもあって、カウンセリング以外にも幅広いサポートが提供されている。「LGBT 関連」グループは、個々に見ていくと他のグループに入るものもあるが、「LGBT」関連へのアプローチとしてどのようなことが行われているか分かるので、一つのグループにまとめた。LGBT 当事者に対しては、カミングアウトや留学の支援も行われており、当事者以外では恋人や家族、当事者と関わる教員へのサポートも行われている。さらに LGBT に関する授業やワークショップ、LGBT アライ（理解し支援する人）を育成する様々な取り組みが行われており、当事者だけではなく関わる人達や一般の学生も対象とした様々な活動が行われている。「相互支援」では、ミーティングやディスカッション、ピアサポート、先輩によるサポート、みんなでランチなど、集まって真剣に話をするものから、勉強やランチを一緒にするものまで、色々な形で行われている。「啓発活動」では、イベント開催やワークショップなどが行われており、今回の調査では具体的にどのような内容のイベント等が行われているのかまでは調べなかったが、最も「支援・活動内容」の個数が多かった University of California のサイト（UCLA LGBTQ Campus Resource Center, 2021）を見ると、LGBTQ 学生の業績や大学への貢献を称える「ラベンダー卒業式」や、queer に関連するポップカルチャーについて話す会などが行われているようである。今後は各大学のイベント内容も調査し、日本の大学でイベントを開催する際の参考にしていきたい。「各種資料」では、本や映画やパンフレットの他、メール雑誌や動画などインターネットを利用したものも提供されていて、コロナ禍で登校できない学生が利用できる配慮がなされている。「経済・服」では、当事者学生向けの奨学金や服の提供・交換が実施されていて、おそらく日本の大学ではまだ行われていないものである。服に関する悩みは、実際にトランスジェンダーの学生から、人目が気になって買いに行ったり試着したりするのが躊躇われという相談を受けており、大学の安全な場で服を入手できる仕組みがあるのは素晴らしいアイデアである。「医療」では、単純な医療ケアから性別適合手術も含む医療ケアまで、大学によって実施状況は異なっている。日本では、大学生で親にカミングアウトしていない場合、医療機関で保険証を使ってホルモン療法を受けるのを避けて、安全性に不安を感じながら自分でネット等を通してホルモン剤を入手している場合もあり、大学でホルモン調整の医療ケアを受けられる環境は学生の心身の安全を守るため

にも非常に望まれる。「性関連」では、性に関するワークショップや無料の性病検査、避妊具等の配布など、これも日本の大学ではほとんど行われていないものである。だが性に関する大事な事柄をほとんど習わないまま大学生になる人が多い日本の現状を考えると、ワークショップ等でのきちんとした情報の提供や、無料で受けられる各種サービスは大事だと思われる。「その他」では、ルームメイト選択や政治関係の活動、インターンシップなどがあり、実施されている活動の幅の広さが改めて感じられた。大学によって規模も事情も異なるため、実施出来るものと出来ないものは当然あり、それはアメリカの大学でも日本の大学でも同じである。ただ、何が出来るだろうかと考える時に、アメリカ大学で行われている多岐にわたる取り組みは今後に向けて非常に参考になると思われる。

本研究はアメリカの大学のウェブサイトから得られた情報を基に行われたため、ウェブサイトに載っていない支援や活動は把握できていない。また今回は state and territorial universities のみを対象としたため、私立大学等ではさらに別の支援・活動が行われている可能性がある。またアメリカだけではなく、セクシュアルマイノリティに関する各種調査で上位になることが多い北欧の国々やカナダの大学も調査を行うべきであろう。日本の大学におけるセクシュアルマイノリティ学生支援はまだ黎明期であり、今後の発展を期待したいが、新しくセクシュアルマイノリティ学生支援の専門部署を作ることは、予算や人、場所の確保が難しい場合も多いと思われる。専門部署の設立が理想だが、本研究の調査で得られた取り組みの中には、既存の組織でも実現可能なものもある。多様性の尊重が求められる時代に、セクシュアルマイノリティに限らずすべての学生が安心して学ぶことができ、各自の能力を発揮できる環境を整えるために、大学は学生と構成員のために何をすることができるのか、考えて実行していくことが大事である。

付記

本研究は JSPS 科研費の挑戦的研究（萌芽）JP17K18640「大学におけるセクシュアルマイノリティ学生への包括的支援モデル構築の検討」（研究代表者 : 松井めぐみ）の助成を受けたものです。

引用文献

中央大学ダイバーシティセンター （2021）． ダイバーシティスクエア https://www.chuo-u.ac.jp/campuslife/diversity/dsquare/ （2021 年 12 月）

枝川 京子（2019）．大学における LGBTQ＋への対応－3 つの壁をのりこえる 葛西 真記子（編） LGBTQ＋の児童・生徒・学生への支援 （pp.182-200） 誠信書房

五十嵐 透子 （2019）． 海外の学校における LGBTQ＋への対応 葛西 記子（編） LGBTQ＋の児童・生徒・学生への支援 （pp.107-126）誠信書房

国立大学法人筑波大学 （2020）． LGBT 等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン第 3 版 https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/wp-content/uploads/2020/03/lgbt_guidline_20200327.pdf （2021 年 12 月）

松井 めぐみ （2020）． 大学におけるセクシュアルマイノリティ学生への支援－啓発活動との関連性－ 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要，5，21-30．

松尾 真治 （2021）．学校での環境整備「個別支援」と「全体への働きかけ」をすすめる 社会福祉法人共生会 SHOWA（編著） 性的マイノリティサポートブック （pp.174-185） かもがわ出版

松岡 宗嗣 （2021）． LGBT 学生対応、方針作成は 1 割以下 高等教育機関に求められる施策ときめ細やかな視点 https://opened.network/column/column-0049/（2021 年 7 月）

明治大学レインボーセンター（2021）．ラウンジ利用 https://www.meiji.ac.jp/campus/rainbowsupportcenter/lounge.html （2021 年 12 月）

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門 （2021）．LGBT 学生への相談窓口について https://diversity.tsukuba.ac.jp/?page_id=7240 （2021 年 12 月）

UCLA LGBTQ Campus Resource Center （2021）． Events and Programs https://lgbtq.ucla.edu/ （2021 年 12 月）

早稲田大学 GS センター （2021）．サービス https://www.waseda.jp/inst/gscenter/more/ （2021 年 12 月）

Wikipedia （2020）．https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_state_and_territorial_universities_in_the_United_States （2020 年 3 月）

藥師 実芳 （2014）．LGBT 旅行記――ニューヨークで出会ったたくさんの支援 https://synodos.jp/opinion/society/6465/ （2021 年 12 月）